

---

# 地球のしごと教養学部 2020年度シラバス

---



暮らし、務め、稼ぎ、3つのしごとを網羅的に学び、  
これからの生きるとしごとを考える

# 講義一覧

| No. | 日程                | テーマ       | 講座タイトル                                 | 場所       | 時間                    | 講師         |
|-----|-------------------|-----------|----------------------------------------|----------|-----------------------|------------|
|     | 9月1日（火）           | オリエンテーション | 教養学部2020について                           | オンライン    | 19:00～21:30           | 高浜大介、佐々木亮  |
| 1   | 9月10日（木）          | 思想・哲学1    | 農山漁村の民衆精神 ～仕事観・労働観～                    | オンライン    | 19:00～21:30           | 内山節        |
| 2   | 9月13日（日）          | 自然と身体性    | 農業体験 ～稲刈りを通じて自然の中に身を置く～                | 千葉県佐倉市   | 10:00～15:00           | 萩谷祐介・田沼郁恵  |
| 3   | 9月16日（水）          | 農業        | 自然栽培と固定種・在来種 ～命を繋ぐ根源的活動とは～             | オンライン    | 19:00～21:30           | 岡本よりたか     |
| 4   | 9月23日（水）          | 流域経済圏     | 流域経済圏と水資源 ～命の源流のマネジメント～                | オンライン    | 19:00～21:30           | 橋本淳司       |
| 5   | 9月30日（水）          | 衣服        | 天然繊維の再興 ～オーガニックコットン事業を通して～             | オンライン    | 19:00～21:30           | 渡邊智恵子      |
| 6   | 10月3日（土）・10月4日（日） | 地域医療      | 統合医療 ～現代西洋医学と伝統東洋医学の統合～                | 静岡県富士宮市  | 10/3 13:00～10/4 13:00 | 山本竜隆       |
| 7   | 10月10日（土）         | 働き方       | ファミリーマネジメント～共働き、オンオフが交差するパラレルワーク～      | オンライン    | 日中                    | 平野彰秀・平野馨生里 |
| 8   | 10月14日（水）         | 思想・哲学2    | 関係人口を哲学する ～「あいだ」を生み出す都市と地方の共生とは～       | オンライン    | 19:00～21:30           | 高橋博之       |
| 9   | 10月17日（土）         | 林業        | 自伐型林業 ～環境保全と経済性の両立～                    | 埼玉県飯能市   | 9:00～16:00            | 中嶋健造       |
| 10  | 10月28日（水）         | 地域商社      | 地域内連携型6次産業のプロデュース ～地域資源のフル活用と農林商工者連携～  | オンライン    | 19:00～21:30           | 藤川豊文       |
| 11  | 11月1日（日）          | 飲食業       | 地域の豊かさを再発見。食から始まる地方創生                  | 岩手県田野畑村  | 15:30～17:30           | 伊藤勝康       |
|     | 11月2日（月）          | SDGs×地方創生 | 燈（ともしび）の農山漁村再生構想 ～鎮守の森SDGsベーシックインカムほか～ | 岩手県田野畑村他 | 日中                    | 高浜大介他      |
|     | 11月3日（火）          | SDGs×地方創生 | 燈（ともしび）の農山漁村再生構想 ～鎮守の森SDGsベーシックインカムほか～ | 岩手県田野畑村他 | 日中～18:00              | 高浜大介他      |
| 12  | 11月11日（水）         | 教育        | 野外で学ぶこと、地域環境での教育の在り方                   | オンライン    | 19:00～21:30           | 山本幹彦       |
| 13  | 11月18日（水）         | アート&地域づくり | 西会津芸術村を基点とした、地方創生の取り組み                 | オンライン    | 19:00～21:30           | 矢部佳宏       |
| 14  | 11月21日（土）         | 狩猟        | 狩猟とジビエ ～人と獣の共生関係～                      | 千葉県君津市   | 1日                    | 原田祐介       |

|    |                 |                      |                                             |              |                 |               |
|----|-----------------|----------------------|---------------------------------------------|--------------|-----------------|---------------|
| 15 | 11月25日<br>(水)   | エネルギー                | 再生可能な自然エネルギー ～エネルギーの<br>地産地消～               | オンライン        | 19:00～<br>21:30 | 井筒耕平          |
| 16 | 12月2日 (水)       | 福祉                   | コミュニティナース ～人とつながり、まち<br>を元気にする～             | オンライン        | 19:00～<br>21:30 | 矢田明子          |
| 17 | 12月5日 (土)       | 住居                   | 伝統的日本家屋に学ぶ気候・風土・暮らし<br>とつながる住まいづくり          | 神奈川県相模<br>原市 | 13:00～<br>17:00 | 山田貴宏          |
| 18 | 12月9日 (水)       | ものづくり<br>& 地域<br>づくり | 石見銀山大森町 ～群言堂が考えるサステイ<br>ナブルな地域づくり～          | オンライン        | 19:00～<br>21:30 | 松場忠           |
| 19 | 12月16日<br>(水)   | 水産業                  | 地域資源を活かした持続可能な漁業の実現<br>～世界へ発信 する「あまべ牡蠣」の挑戦～ | オンライン        | 19:00～<br>21:30 | 早川尚吾・<br>高畑拓弥 |
| 20 | 12月23日<br>(水)   | サテライト<br>オフィス        | 地域に溶け込むサテライトオフィス ～都会<br>からの人材と地域を繋ぐ～        | オンライン        | 19:00～<br>21:30 | 吉田基晴          |
| 21 | 1月11日 (月・<br>祝) | 移住しごと                | 移住しごと構築戦略立案                                 | オンライン        | 日中              | 高浜大介          |
|    | 2月21日 (日)       | 卒業式                  | 地球のしごと教養学部を終えて                              | オンライン        | 日中              | 高浜大介、<br>佐々木亮 |

#### <備考>

- オンライン講座「15」フィールドワーク講座「6」の「**全21講座（オリエンテーションと卒業式は除く）**」を予定しています。
- 各講座には書籍などの「**事前学習課題**」があります。
- 各講座の講座一週間前に、オンラインで「**予習会**」を一時間ほど実施いたします。
- 12月17日（水）、23日（水）に予定している講義は、土日を使った徳島県（海陽町・美波町）への「**遠征・フィールドワーク**」に変更になる可能性があります。9月時点での社会状況を鑑みて判断いたします。
- オンライン講座は、ビデオ会議システム「**Zoom**」を用いて行います。
- 講義内容、テーマは予告なく変更になる場合があります。
- 欠席の場合は、ほぼ全ての講義の「**ビデオ受講**」が可能です。また、ほぼ全ての講義で使用した資料を配布いたします。
- 受講生には「**オンラインコミュニティ（Slack）**」にご参加いただきます。
- 遠征・フィールドワークは、受講生に旅程を立てていただき、皆さんで協力して講義開催地まできていただきます。
- フィールドワークは「**社会情勢**」により中止する場合があります。その場合はリモートで代替の講座を用意します
- 講師一覧は[こちら](#)。「+」をクリックすると詳しいプロフィールを見ることができます

---

9月10日（木） 19:00～21:30

## 【テーマ】 思想・哲学1

### 【タイトル】

農山漁村の民衆精神 ～仕事観・労働観～

### 【概要／狙い】

人生の長い時間を費やす仕事や労働。

仕事や労働の在りようは、その人間の幸福度に密接に関わります。

我々は、仕事や労働とは何か？について考えたことがあるでしょうか？

稼ぐため、生活していくためだけに、仕事や労働を強いられている面はないでしょうか？経済第一優先の労働観を越えるためのヒントは、内山氏の語る「温かい貨幣と冷たい貨幣」「劣化する貨幣」などにあるかもしれません。

日本の農山漁村での仕事や労働に対する考え方、価値観を紐解きつつ、貨幣とは何なのか？

日本の民衆が持っていた仕事観・労働観、そして対価としての金銭との関係性とはどのようなものか？

「おすそ分け」の贈与経済から、近年注目されているソーシャルビジネスまで、私たちが未来に求めるべき仕事の在りようについて考えます。

### 【場所】

オンライン（Zoom）

---

## 【講師】

内山 節 ／ 哲学者

## 【課題図書】

『半市場経済 成長だけでない「共創社会」の時代』

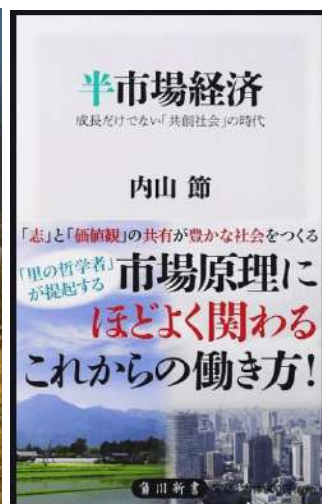
著者：内山節（角川新書）

## 【参考図書】

『戦争という仕事』

著者：内山節（信濃毎日新聞社）

## 【参考写真】



---

9月13日（日） 10:00～15:00（予定）

## 【テーマ】 自然と身体性

### 【タイトル】

農業体験～稲刈りを通じて自然の中に身を置く～

### 【概要／狙い】

千葉県佐倉市にある当大学の連携農園では、自然にも人間にも負担の少ない無農薬・無化学肥料でのお米作りを通して、ホタルが舞い飛ぶような環境作りをしています。

地球のしごと大学では「循環型農業学部」や「my田んぼ部」「my大豆&味噌づくり部」などを運営しています。

本講義では、教養学部受講生の初顔合わせの場として、稲刈りという日本の伝統的協働作業を通して親睦を深めます。

吹く風が気持ちのよい秋の里山で、五感をつかって自然を感じましょう。お昼は羽釜で美味しいご飯をつくり、皆でいただきます。

### 【場所】

千葉県佐倉市

### 【講師】

萩谷 祐介 ／ 地球のしごと大学 循環型農業学部 担当

田沼 郁恵 ／ 地球のしごと大学 循環型農業学部 担当



---

## 【課題図書】

『虫眼とアニ眼』

著者：養老 孟司、宮崎 駿（新潮文庫）

## 【参考写真】



---

# 9月16日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 農業

### 【タイトル】

自然栽培と固定種・在来種 ～命を繋ぐ根源的活動とは～

### 【概要／狙い】

現在市場で主に流通している形の揃った野菜などの大半は農薬・化学肥料・交配種（F1種）を使った農法により大量に作られたもので、これらは毎年、資材や種を新たに買い足し与えなければ、成り立たない農法でもあります。

しかし、本来あるべき微生物の力や自然界の循環の輪、野菜の個性がそこにはありません。

本講義では講師の岡本よりたかさんが実践している「無肥料栽培」（自然栽培、自然農法）について伺います。農薬や化学肥料は一切使用せず、雑草や米ぬか、落ち葉などを肥料とし極力その土地に在るものを使います。

また、固定種・在来種の種を、種取をして次年度に繋ぎます。水や土壌、空気や虫まで、本来有る循環の輪を取り戻し、より環境と植物に寄り添った農業が可能となります。

講師の岡本さんは、農業の色々なやり方、最新の情報を精査し、地域での農業の在自然界の原理原則を理解し、作物が本来的に持つ生命力を生かす無肥料栽培を実践されていらっしゃる方で、多くの方がその方法を岡本さんから学んできております。

岡本さんから、化学肥料や農薬、種、最先端テクノロジーを使った農法など、農業界の現状について学ぶことで、食の安全安心とは何か？について考察し、これから先の農業の在り方を展望していきます。

### 【場所】



---

オンライン（Zoom）

**【講師】**

岡本 よりたか ／ 無肥料栽培家・環境活動家

**【課題図書】**

『無肥料栽培を実現する本』

著者：岡本よりたか（マガジンランド）

**【参考図書】**

『続・無肥料栽培を実現する本』

著者：岡本よりたか（マガジンランド）

『種は誰のものか？』

著者：岡本よりたか（veggy）

**【参考写真】**



---

9月23日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 流域経済圏

### 【タイトル】

流域経済圏と水資源 ～命の源流のマネジメント～

### 【概要／狙い】

未定人間の暮らし全てに共通して不可欠な要素、それは「水」です。日本は奇跡的に水資源が豊富と言われており、水のリスクを日常的に感じる機会はほとんどありません。

しかし世界を見渡せば、中国やオーストラリアなど水資源が死活問題になっている国も少なくありません。水に困らない国は珍しいのです。

しかしながら「外国人が過疎地の山を買いあさっている」「地下水量に変化がみられる」など、日本人の水資源も安泰では決してありません。

本講座では人間に必要な水資源の循環にフォーカスし、流域経済圏(※)や、地球規模で枯渇を始めている地下水に関しての知識や資源管理のリスクについて学びます。

生命の源となる水循環を起点に、流域単位で経済と環境保全の両立を図る水資源の扱い方を考え、議論します。

（※）流域経済圏とは、分水嶺から沿岸までの河川の流域圏における経済的なつながりの単位を表す。場合によっては複数の行政区域にまたがる。本来、一つの流域圏は、上流の山村から下流の漁村まで相互に関連しあい、社会、経済的に強いきずなを保有する。古来より人類は大きな河川を中心に集落を形成してきたことから流域経済圏の考え方はとても重要です。

環境循環型社会は流域経済圏内での循環からスタートすべきだと考えています。

### 【場所】

---

オンライン（Zoom）

**【講師】**

橋本 淳司 ／ アクアスフィア・水教育研究所代表

**【課題図書】**

『日本の地下水が危ない』

著者：橋本 淳司（幻冬舎新書）

**【参考図書】**

『環境を知るとはということか 流域思考のすすめ』

著者：養老孟司、岸由二（PHPサイエンス・ワールド新書）

**【参考サイト】**

[アクアスフィア水教育研究所のサイト](#)

**【参考写真】**



---

# 9月30日（水） 19:00～21:00

## 【テーマ】 衣服

### 【タイトル】

天然繊維の再興～オーガニックコットン事業を通して～

### 【概要／狙い】

世界中の農薬の20パーセントが綿花栽培に使われています。

綿花栽培は大量の水を使うので、世界最大の綿花の産地、アラル海が干上がり、塩害が生じ、その地域に住む人々は甚大な健康被害にあっています。

また、バングラデシュでファストファッションメーカーの工場が入ったビルが倒壊、1100人以上が亡くなるという大惨事もありました。化学繊維もどんどん増えており、化学物質による肌への負担、環境ホルモン・化学繊維・静電気が発生しやすいといったことから様々なアレルギーや病気につながる事が懸念されます。

過剰な広告、ファッション業界の「計画的陳腐化」計画に乗せられ、流行に流され、日本人は一年間で10キロの洋服を買い、8.5キロを捨てています（2009年）。

また、日本の衣服の自給率は何%かご存知でしょうか？普段、当たり前のように身に付けている衣服についてもいろいろな課題が存在しています。本講義で参考にするのは、オーガニックコットンのパイオニア、アバンティ。

厳しい検査基準を満たしたオーガニックコットン、日本の職人の手による顔の見えるものづくりは、現代の資本主義の論理のアンチテーゼです。

代表であり、様々な活動をされている渡邊智恵子さんに、市場経済の中では難しいオーガニックコットンの事業化、業界動向について伺い、衣服の未来について一緒に考えます。

事前にアバンティのオリジナルブランド「プリスティン」のショップをのぞいていただき、講義にのぞんでみてください！

---

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

渡邊 智恵子 ／ 株式会社アバンティ代表取締役社長

### 【課題図書】

『ワタが世界を変える』

著者：田畑健（地湧社）

### 【参考サイト】

[プリンスティンのホームページ](#)

### 【参考写真】



---

10月3日（土） 13:00～10月4日（日）  
13:00（予定）

## 【テーマ】 地域医療

### 【タイトル】

統合医療～現代西洋医学と伝統東洋医学の統合～

### 【概要／狙い】

代替医療とは、現代西洋医療の領域外の医学・医療体系を総称したものです。

東洋医学（漢方、鍼灸など）全般のほか、食養生、プロバイオティクス、呼吸法、太極拳、波動医学、その他アーユルヴェーダやユナニ医学などの伝統医学からニューサイエンスと呼ばれている医療としてはまだ認知されていない現代科学的最先端医学まで、幅広い医療分野を指します。

そして、代替医療のみならず、現代西洋医学も含めて実践する医療が統合医療。

症状だけではなく、その人の性格や暮らしなども含めて診断することから、全人的な医療、ホリスティック医学と呼ばれることもあります。

統合医療の基本は、ひとりひとりの患者に対し、様々な方面から診ることで多面的に捉え、最適な医療をコーディネートすることにあります。

また、医療へのアクセスも重要です。

住んでいる地域に、最良の医療があることが、理想的かつ自然な医療のかたちです。

講師は、朝霧高原診療所の院長先生である山本竜隆さん。過疎化・高齢化により僻地に医



---

療が届かなくなっている中で、地域医療とインバウンドと絡めた養生医療の両輪で、医療の問題に取り組んでいます。

そのご活動を踏まえて、経験的事実として利用される代替医療・自然療法と近代西洋医学とを合わせた統合医療の可能性、地域医療の在り方について議論します。

### 【場所】

静岡県富士宮市

### 【講師】

山本 竜隆 / 朝霧高原診療所 院長

### 【課題図書】

『自然欠乏症候群 -体と心のその「つらさ」、自然不足が原因です』

著者：山本 竜隆（ワニブックスPLUS新書）

### 【参考図書】

『漢方のプロが教える最高の体調をつくる食事術Kindle版』

著者：山本 竜隆，石部 晃子（アスコム）

### 【参考サイト】

---

フィールドワークおよび宿泊場所になる [日月俱樂部](#)、[富士静養園](#)のホームページ

【参考写真】



---

# 10月10日（土） 14:00～16:30（予定）

## 【テーマ】 働き方

### 【タイトル】

ファミリーマネジメント～共働き、オンオフが交差するパラレルワーク～

### 【概要／狙い】

都会を中心に、リモートワーク、パラレルワークなどの新しい働き方への注目が高まっています。

個人はライフ・ワーク・バランスを実現でき、企業は柔軟な働き方ができることにより優秀な人材を集められるため、双方にとって良い形と言えます。

一方地方でも、地方だからできる豊かな働き方・暮らし方をしている方がいらっしゃいます。講師の平野彰秀さんと馨生里さんは岐阜県郡上市の石徹白という奥まった地域に移住して3人のお子さんを育てています。

彰秀さんは小水力発電所や移住プロジェクトの企画運営、馨生里さんは自然素材の洋品店を営んでいます。本講義では、彰秀さんと馨生里さんの生活スタイルを伺い、地方での暮らし方のイメージをつかみます。

また、より働きやすく、暮らしやすい「地方での生活」を作るために必要なシステムや支援策を考えます。

なぜ移住先が岐阜県郡上市の石徹白だったのか？石徹白に住む人々が培ってきた、古き日本に存在し、今は失いかけている素晴らしい文化についても是非感じていただきたいと思います。

### 【場所】

オンライン（Zoom）

---

### 【講師】

平野 彰秀 ／ NPO法人地域再生機構 副理事長

平野 馨生里 ／ 石徹白洋品店 店主

### 【課題図書】

検討中

### 【参考サイト】

[石徹白洋品店のサイト](#)

### 【参考写真】



---

10月14日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 思想・哲学2

### 【タイトル】

関係人口を哲学する ～“あいだ”を生み出す都市と地方の共生とは～

### 【概要／狙い】

一日中頭ばかり使い、身体性が喪失していく社会を解剖学者の養老孟司さんは脳化社会と命名しました。脳化が進む都市で、生きる意義や生きるリアリティに飢える都市住民は増加の一途にあります。

一方で、農業など地方で一次産業に携わる人たちは食べるものなど生きるために最低限必要なものを自分でつくっていますが、そこにはわかりやすい「生きる」があります。

そして《あいだ》の喪失。自然を排した都市で暮らす私たちと自然の《あいだ》はありません。関わりがなければ関心を持てないのです。

だから、環境汚染や地球温暖化は止まらないのだと思います。97%の消費者と3%の生産者の分断は、そのまま都市と地方の分断につながっています。

東京一極集中の裏側で進む地方の農山漁村の衰退。

人間が生きるために必要な食べ物や空気、水を生み出す自然に手をかける人間が減っているというのに、都市住民はまるで他人事のように無関心を決め込んでいるようです。

私たちは暮らしや社会に《あいだ》を取り戻す必要があるのではないのでしょうか。

最近、よく言われるようになったワード「関係人口」について哲学しましょう。

[講師の高橋さんが代表を務める「ポケットマルシェ」のサイト](#)

こちらから事前に購入いただき、当日各地方の産物を取り寄せて、五感で感じながら関係



---

人口を考えていきましょう！

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

高橋 博之 ／ 株式会社ポケットマルシェ 代表取締役

### 【課題図書】

『都市と地方をかきまぜる「食べる通信」の奇跡』

著者：高橋 博之（光文社新書）

### 【参考写真】





---

10月17日（土） 9:00～16:00

## 【テーマ】 林業

### 【タイトル】

自伐型林業～自伐型林業～環境保全と経済性の両立～

### 【概要／狙い】

日本の国土の7割を森林が占めています。

「地域創生」に取り組むならば、林業の再興、国産材の有効利用にこそ力を入れるべきです。

「大規模・大量生産・集約・高投資・高コスト・委託/請負」型の林業が国策「森林・林業再生プラン」とされている一方で、土佐の森・救援隊は「小規模・少量多品目生産・分散・低投資・低コスト・自立」型の自伐林業を核とした『土佐の森方式』を確立し、地域に根ざした仕組みを展開しています。

参照：[森林再生の方途中嶋健造さん](#)

大規模林業一辺倒では森林破壊や市場破壊が多発していますが、地域に根ざした自伐型林業『土佐の森方式』は、木質バイオマス利用のための林地残材収集や、地域林業再生、地域雇用、地域経済活性化、森林環境再生に大きく貢献し、林業市場を大きく拡大することも分かってきました。自伐型林業は森林再生や地域振興に大きく貢献します。

この情報が全国に伝播し、導入地域はすでに40以上で、気候危機時代に突入した今災害防止策としての評価もありさらに勢いを増しています。

牽引役の中嶋健造さんから日本の林業の問題点、自伐型林業の概要について学び、自伐型林業を実践している施業山林（埼玉県飯能市）の見学も行います。

### 【場所】

---

埼玉県飯能市

【講師】

中嶋 健造 ／ 自伐型林業推進協会 理事長

【課題図書】

『小さい林業で稼ぐコツ: 軽トラとチェーンソーがあればできる』

編集：農文協, 農山漁村文化協会（農山漁村文化協会）

【参考図書】

『New 自伐型林業のすすめ』

著者：中嶋健造（全国林業改良普及協会）

【参考写真】



---

# 10月28日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 地域商社

### 【タイトル】

地域内連携型6次産業のプロデュース～地域資源のフル活用と農林商工者連携～

### 【概要／狙い】

地域の自立のためには、地域資源を有効活用して、外貨を獲得する必要があります。そのような意味で、地元の特産品を使った商品開発や六次産業化が有効な手立てではありますが、まだまだ地域資源を生かし地域にお金が循環する仕組みが作れていない地域が多いのが現状です。

また、都市へ地域資源を流すことで従属的な関係になったり資源枯渇に陥ったりするのではなく、地域資源の保全と再生産が適切に行われ、地域が豊かになる在り方を作る必要があります。

そこで、今注目を集めているのが、地域をまるごとプロデュースして地域外からのお金の流れを作る「地域商社」です。

高知県本山町にある木材加工ベンチャーばうむ合同会社の木製品は、大手ブランドからも受注が相次いでおり、東急ハンズでもその商品が取り扱われています。

なかでもレーザーカッターを活用した木材製品の評判が高く、その付加価値は、原木価格の150倍にまで上ります。しかしながら、高知県嶺北地域は豊富な森林資源に恵まれているにも関わらず、木材価格の低迷によって十分な森林整備が行われていない現状があります。

ばうむ合同会社では、木材の利用を促進し、木材価格の向上を図ることで自社も、地域も、自然環境も守られる地域が持続する商売の確立を目指しています。

木工品以外にも、地元ブランド米を活用した、焼酎の製造販売も行うなど、地域をまるごとプロデュースする地域商社の先駆的存在です。

---

本講座では、ばうむ合同会社がどのような考えで地域資源をとらえ、どのような方法で地域資源のプロデュースを行っているのかを学び、地域商社に必要なエッセンスを学びます。

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

藤川 豊文 ／ ばうむ合同会社 代表

### 【課題図書】

『2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望』

著者：落合陽一（SBクリエイティブ）

### 【参考図書】

『まだ林業で消耗してるの？「ばうむ」代表・藤川豊文さんから、自然を守る林業を学ぶ』 Kindle版

著者：イケダ ハヤト、藤川 豊文（イケハヤ書房）

### 【参考写真】



---

11月1日（日） 16:00～18:30

## 【テーマ】 飲食業

### 【タイトル】

地域の豊かさを再発見。食から始まる地方創生

### 【概要／狙い】

未定

### 【場所】

岩手県田野畑村

### 【講師】

伊藤 勝康 ／ ロレオール田野畑 シェフ

### 【課題図書】

なし

### 【参考サイト】

[ロレオール田野畑村のホームページ](#)

### 【参考写真】





---

# 11月2日（月）～11月3日（火） 時間未定

## 【テーマ】SDG s x 地方創生

### 【タイトル】

燈（ともしび）の農山漁村再生構想

～鎮守の森SDG s ベーシックインカムほか～

### 【概要／狙い】

岩手県北三陸地域のシンクタンクでありドゥタンクとして、農山漁村の持続可能な社会経済モデルを創るべく、自治体とともにまちづくり会社「一般社団法人燈（ともしび）」を2020年2月に設立しました。

鎮守の森SDG s ベーシックインカム構想を中心として、六次産業創出、教育魅力化、UIターン移住者誘致育成、村まるごとワーケーション、木質バイオマスエネルギー、MaaSほかテクノロジーを活用したインフラ構築など、多岐に渡る事業を手掛けています。

その地方創生事業における最前線のリアルをお伝えします。

燈が手掛ける現場（田野畑村、普代村、岩泉町など）を実際に見て回り、ここ北三陸から未来の都市 x 農山漁村について展望します。

### 【場所】

岩手県 田野畑村、普代村、岩泉町等

### 【講師】

---

高浜 大介 ／ NPO法人地球のしごと大學 理事長

【課題図書】

なし

【参考サイト】

[田野畑村のホームページ](#)

【参考写真】



---

# 11月11日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 教育

### 【タイトル】

遊びが学びに欠かせないわけ～自立した学びを育てる～

### 【概要／狙い】

スウェーデンの自然学校やプリスクールで学校の教師の多くが授業で実践しているアクティビティがギュッと詰まった算数の野外教育というものがあります。

野外で身体を動かし、五感をフルに使い、身体全体で算数を学びます。野外に出ることで、子どもたちの学びにたくさんの効果が得られます。

「遊び」や「楽しさ」は、学びにとって大切な要素です。教室の中の知識としての学習と、野外での体験をうまく組み合わせながら、子どもたちは学びを深めていきます。

本講義では、海外の環境教育を視察し、日本の環境教育との交流を行ってきたNPO法人当別エコロジカルコミュニティ代表理事山本幹彦さんから「野外で算数」の必要性和意義を学び、これからのわたしたちの目指す教育の在り方、自立した学びを育てることについて、議論します。

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

山本 幹彦 ／ NPO法人当別エコロジカルコミュニティ

---

### 【課題図書】

『遊びながら野外で学ぼう 野外で算数』

共訳：山本幹彦、山本風音（合同会社ラーニング・アウトドア）

### 【参考サイト】

[合同会社ラーニング・アウトドアのホームページ](#)

### 【参考写真】



---

# 11月18日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 アート & 地域作り

### 【タイトル】

アートが人を呼び、人が人を呼ぶ 福島県西会津町 西会津国際芸術村の取組み

### 【概要／狙い】

過疎地で注目されているのが、外部の若者やクリエイティブな人材を誘致することで、人口構造や人口構成を変化させる取組みです。農林業だけに頼らないバランスの取れた持続可能な地域づくりをする狙いがあります。

本講義では、西会津国際芸術村を中心とし、ランドスケープデザインを基にした地域デザインや、アートで人を呼ぶ活動をされている矢部さんから、人口減少を止めるのではなく、たとえ少なくなったとしても身の丈に応じた、しかも知的・文化的に活気がある町づくりの取組みを学びます。

「山あいの静かな集落にたたずむ当芸術村では、自然と人間の付き合い方を見つめ直しながら、古来培われてきた伝統的な里山の暮らしの知恵を再評価し、古くて新しい価値観による文化的なライフスタイルを探求しています。そして、地域の持続可能性を模索するため、“芸術”を広く人間の暮らしを支える“技”や“知恵”としてとらえ、地域が失いつつある歴史・風土・民俗・文化・伝統技術をデザインやアートの持つ創造の力と融合し、発信していきたいと考えています。」

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

---

矢部 佳宏 ／ 西会津国際芸術村ディレクター

**【課題図書】**

検討中

**【参考サイト】**

[西会津国際芸術村のホームページ](#)

**【参考写真】**





---

# 11月21日（日） 9:00～15:30（予定）

## 【テーマ】 狩猟

### 【タイトル】

狩猟とジビエ ～人と獣の共生関係～

### 【概要／狙い】

近年中山間地域を中心に鳥獣被害が深刻な状況にあります。

鳥獣による農作物への被害額はおよそ200億円で、その6割が獣類、4割が鳥類によるものであり、獣類では9割がイノシシ、シカ、サルによるものとされています。主な原因は餌となる広葉樹が少なく針葉樹が増えたこと、集落の過疎化・高齢化による人間活動の減少などとされています。

しかしながら、これらは人間目線での話です。動物はずっと山の中に住み、動物と人間は自然界において共生してきたはずです。人間目線だけではなく、自然界全体で見たときに動物と人間はどのように共生できるのでしょうか。

本講義では参考にするのは、千葉県君津市で廃校を活用し、猟師工房ランドを立ち上げた原田祐介さんです。原田さんは狩猟を通じて自然を守ることについて考え、鳥獣被害問題解決に取り組んでいらっしゃる方です。

狩猟の現状と課題、駆除した獣を無駄にせず適切に処理することについて考えます。

※獣の解体も行います。

### 【場所】

千葉県君津市

### 【講師】

---

原田 祐介 ／ 猟師工房 代表

【課題図書】

なし

【参考サイト】

[猟師工房ランドの紹介記事](#)

【参考写真】



---

11/25（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 エネルギー

### 【タイトル】

再生可能な自然エネルギー～エネルギーの地産地消～

### 【概要／狙い】

日々の生活で無意識のうちにいろいろなエネルギーに触れ、エネルギーを使って生活を送っています。

少し前までは電気やガス等のエネルギーは、大手企業から購入するサービスのひとつであり、生産と消費が切り離された状態でした。

しかし近年、地域で使うエネルギーを地域内で生み出す取り組みが全国各地で広がっています。

太陽光、風力、小水力等による発電やバイオマスを利用した発電および熱エネルギーの利用などその数も年々増加しています。

今回の講義では全国各地での動きを書籍で学び、バイオマスエネルギーを活用した岡山県西粟倉村の「あわくら温泉元湯」の事例をもとにケーススタディを学びます。

講義前に、入浴木を購入して、ヒノキのお風呂体験をしてみましょう！

<https://motoyu.base.shop/items/27263704>

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

---

井筒 耕平 ／ 株式会社sonraku 代表取締役CEO

**【課題図書】**

『ご当地電力はじめました』

著者：高橋 真樹（岩波ジュニア新書）

**【参考動画】**

[講師井筒耕平さんのnote](#)

[Energy shiftの記事](#)

**【参考写真】**



---

# 12月2日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 福祉

### 【タイトル】

コミュニティナース ～人とつながり、まちを元気にする～

### 【概要／狙い】

医療格差、高齢化などの解決策として注目されるのが、コミュニティナースです。コミュニティナースは、いつも地域の中にいて “健康的なまちづくり” をする医療人材です。

病院や福祉施設、訪問看護に従事する看護師と異なり、地域の中で住民とパートナーシップを形成しながら、その専門性や知識を活かして活動する医療人材のことです。

講師矢田さんが代表を務めるコミュニティナース・カンパニーでは、以下のようなコンセプトを掲げ、健康的なまちづくりに貢献することを目指しています。

- ヒトとコトをつなぎ、まちを元気にする
- 地域の人の力を引き出し、まちの可能性をひろげる
- 地域に必要な機能をつくる

コミュニティナースという社会実験を通じて、地域の声・みんなのアイデアが形になり、健康で幸せな人があふれていくそんな未来を信じて進めているのです。

本講義では、コミュニティナースの取り組みを学び、地域での健康のあり方や作り方、更には、幸せなまちとは？元気なまちとは？何かについて考え、議論します。

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

---

矢田 明子 ／ Community Nurse Company 代表取締役

### 【課題図書】

『コミュニティナース ―まちを元気にする“おせっかい”焼きの看護師』

著者：矢田明子（木楽舎）

### 【参考動画】

[コミュニティナース活動紹介ムービー](#)

### 【参考写真】





---

# 12月5日（土） 14:00～16:30

## 【テーマ】 住居

### 【タイトル】

伝統的日本人家屋に学ぶ気候・風土・暮らしとつながる住まいづくり

### 【概要／狙い】

伝統的な家屋には、半分外の部分（縁側や土間等）があり、家屋の外と緩やかに繋がっています。

気候風土との関わり、自然との応答の中で培われた技術と知恵によって造られ、その土地でとれる材料、地域の資源や技術を使う「地産地消」が基本で、それが地域ごとに特色ある風景を生み出してきました。

日本の伝統的な住まいづくりには、驚くべき技術と知恵が詰まっています。しかし、現代では、産業としての住まいづくりが先行し、廃棄物やシックハウス、海外の森林破壊などの問題が起きています。

そんな中、環境に負荷をかけない家、日本の森林を活かす家、日本の伝統技術を継承する家、セルフビルドによって手間をかける家、パッシブ技術や再生可能エネルギーなどを利用した自立する家、地域の信頼関係や地域経済への寄与などに配慮した家などが注目を集めています。

また、現代人の生活の中で、「家には寝に帰る」ことが多くなっています。人が暮らし、その中で文化や関係を育む場所としての「住まい」を再興したいものです。

現代技術と日本の伝統家屋の良さを融合した家屋を自ら設計し、住まわれている講師の山田さん宅に伺い、議論します。

### 【場所】

---

神奈川県藤野町

**【講師】**

山田 貴宏 / ビオフォルム環境デザイン室 代表

**【課題図書】**

『里山長屋を楽しむ』

著者：山田貴宏（学芸出版社）

**【参考サイト】**

[NPO法人パーマカルチャー・センター・ジャパン](http://www.parculture-japan.org/)

**【参考写真】**



---

# 12月9日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】ものづくり&地域づくり

### 【タイトル】

石見銀山大森町 ～群言堂が考えるサステイナブルな地域づくり～

### 【概要／狙い】

「群言堂（ぐんげんどう）」は「株式会社石見銀山生活文化研究所」が展開するライフスタイルブランドです。

世界遺産登録された石見銀山遺跡のお膝元、人口400人の島根県大田市大森町に根を下ろし、手仕事美しい服や古民家再生など、持続可能な衣・食・住・美の文化を伝えています。

群言堂は、衣類を中心に日本の古き良き生活文化から学ぶ、根のある暮らしを提案しています。時代に合わせて新しいモノやコトを創り出す「復古創新（ふっこそうしん）」という考え方をベースにして、暮らしを第一に考え、日本の技術を活かしたものづくりに取り組んでいます。

2016年11月、ユネスコ初のESD（持続可能な開発のための教育）専門家会議が大森町で開催されました。

それから3年後の2019年3月、その次の取り組みとして、「第1回ユネスコESDリーダーシップシンポジウム」が大森町で開催、アジアを中心に8ヶ国から教育部門のリーダーが集まり、大森町の持続可能な取り組みを視察・議論されました。

参照：[ユネスコリーダーシップシンポジウム、ブータン教育大臣のインタビュー動画](#)

「日本の地方で持続可能な生き方を学ぶ」という世界規模のテーマに大森町は選ばれており、群言堂は持続可能なものづくりから地域づくりを推進しています。

本講義では、群言堂が考えるサステイナブルなものづくりの考え方と取り組みを学び、サステイナブルな地域づくりのあり方や作り方について考え、議論します。

---

## 【場所】

オンライン（Zoom）

## 【講師】

松場 忠 ／ 株式会社石見銀山群言堂グループ 取締役

## 【課題図書】

検討中

## 【参考サイト】

[群言堂のホームページ](#)

[石見銀山・大森町のホームページ](#)

## 【参考写真】



---

# 12月16日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】水産業

### 【タイトル】

地域資源を活かした持続可能な漁業の実現 ～世界へ発信 する「あまべ牡蠣」の挑戦～

### 【概要／狙い】

漁業の問題点の一つとして、資源管理の難しさが挙げられます。世界全体が経済成長し人口が増えることで漁獲量が増え、資源量が減っているといわれています。

それに対し、日本国内でも養殖や資源管理の適正化などが行われています。

一方で、近海で獲れた魚介類をその地域で頂き、未利用魚を活用する在り方も一つの自然な在り方だと言えます。

そんな状況の中、今まさに持続可能な漁業の実現を目指す水産ベンチャーが徳島県海陽町にあります。それが株式会社リブルです。

リブルはICTを駆使した「牡蠣の養殖」にのりだし、勘と経験に依存しがちだった牡蠣の養殖事業を変革し、安定した収量の確保や事業の拡大を図ることで、地域産業の発展につなげようとしています。リブルはデジタルテクノロジーを積極的に活用することで、養殖にかかる作業時間を年間188時間削減することを目指しています。

あわせて、2024年をめどに牡蠣の出荷量を現在の5倍に相当する30万個にまで増やす目標を掲げています。

水産業の資源管理という問題をどのようにとらえ、アクションを起こせば、漁業は持続するのか。リブルの思想と取り組みから、持続可能な漁業の在り方について考えます。

### 【場所】

---

オンライン（Zoom）

**【講師】**

早川 尚吾 ／ 株式会社リブル 代表取締役

高畑 拓弥 ／ 株式会社リブル 取締役

**【課題図書】**

『魚が食べられなくなる日』

著者：勝川 俊雄（小学館新書）

**【参考サイト】**

[株式会社リブルのホームページ](#)

**【参考写真】**





---

# 12月23日（水） 19:00～21:30

## 【テーマ】 サテライトオフィス

### 【タイトル】

地域に溶け込むサテライトオフィス ～都会からの人材と地域を繋ぐ～

### 【概要／狙い】

徳島県の小さな漁村である「美波町」は日本一のサテライトオフィス出展企業数（17社）を誇ります。

都心から企業社員やデザイナーが移住し、祭りなどにも積極的に参加し地域に溶け込み、家族を作り増やしています。

企業社員が出張時に家族で訪れ、子供を美波町の小学校に通わせる「デュアルスクール」も実現。

それらの仕掛けを成功させている地域活性会社「あわえ」の代表である吉田基晴代表の話をうかがい、美波町の取り組みから都市企業と農山漁村の幸福なコラボレーションを学びます。

参照：[総務大臣表彰を株式会社あわえが受賞、ICTを活用した地方創生モデルの構築で](#)

### 【場所】

オンライン（Zoom）

### 【講師】

吉田 基晴 ／ 株式会社あわえ 代表取締役社長

---

### 【課題図書】

『本社は田舎に限る』

著書：吉田基晴（講談社+α新書）

### 【参考サイト】

[株式会社あわえのホームページ](#)

### 【参考写真】

